

わが家の防災メモ

避難場所のメモ 災害別にどこに避難すればいいのかをメモしておきましょう。

大雨(洪水)のおそれのあるとき	土砂災害のおそれのあるとき	家族が離れたときの集合場所

家族のメモ 家族のデータを記入しておきましょう。

家族の名前	生年月日	血液型	持病・常用薬 アレルギーなど	緊急連絡先	電話(勤務先/学校)
	T-S-H-R 年 月 日	Rh(+・-) 型			
	T-S-H-R 年 月 日	Rh(+・-) 型			
	T-S-H-R 年 月 日	Rh(+・-) 型			
	T-S-H-R 年 月 日	Rh(+・-) 型			
	T-S-H-R 年 月 日	Rh(+・-) 型			

緊急連絡先 (市外局番 0139)

- 警察 **110番**
江差警察署 厚沢部駐在所 **64-3350**
江差警察署 鶴駐在所 **65-6014**
江差警察署 館駐在所 **66-2003**
- 医療機関
厚沢部町国民健康保険病院 **64-3036**
- 厚沢部町役場 **64-3311**
- 北海道電力 江差ネットワークセンター
(停電、電柱・電線などの設備に関する問合せ) **0120-06-0914**
- 火事・救急車 **119番**
厚沢部消防署 **64-3064**
厚沢部消防署 鶴分遣所 **65-6051**
厚沢部消防署 館分遣所 **66-2073**

災害用伝言サービス

災害用伝言ダイヤル 171

電話を利用する声の伝言板です。

171 にダイヤルするとガイダンスが流れます

録音の場合 **1** を押す 再生の場合 **2** を押す

「被災者」は自分の電話番号を、
「被災者以外」は被災者の電話番号を
市外局番からダイヤルしてください

1 伝言を録音 ※30秒以内 **1** 伝言を再生

9 終了 **8** もう1度聞く

※固定電話や携帯電話・PHS・IP電話が利用可能です **9** 別の伝言を聞く

携帯電話各社の災害用伝言版

携帯電話などを利用して安否を登録・確認が可能です。地震や風水害などで被災地との連絡が困難になった場合に災害用伝言版が開設されます。

各社公式サイトトップ画面「災害用伝言版」を選択

伝言を残す(登録する)場合、**登録**を選択 伝言を読む(確認する)場合、**確認**を選択

現在の状態を「無事です」などの選択肢から選び、任意で100文字以内の伝言を入力する

登録を選択

安否確認したい方の携帯電話の番号を入力して検索する



厚沢部町役場

〒043-1113 北海道檜山郡厚沢部町新町207番地
TEL:0139-64-3311 FAX:0139-67-2815
<https://www.town.assabu.lg.jp>

2021年
保存版

避難場所一覧表

地区名	施設名	標高	所在地	電話番号(0139)
美和	旧美和小学校	14m	美和236	—
	美和ふれあいセンター	14m	美和241-2	67-2341
富栄 緑町	富栄ふれあいセンター ※1	5m	富栄243-2	—
	緑町コミュニティセンター ※1 ※2	10m	緑町72-1	—
本町 松園町 上の山 新町 赤沼町	厚沢部小学校 ※1 ※2	9m	新町104	64-3042
	厚沢部中学校 ※1	9m	新町250	64-3354
	山村開発センター ※1	8m	新町207	64-3311
	保健福祉総合センター ※1	8m	新町181-6	67-2310
	総合体育館 ※1	9m	新町234-1	64-3436
	赤沼町ふれあいセンター ※1	9m	赤沼町86-2	67-2047
	まちなか交流センター ※1 ※2	14m	本町97	—
上里	上里ふれあい交流センター ※1	11m	上里92-1	64-3100
滝野 稲見	滝野寿の家 ※1	16m	滝野493	—
清水	清水ふれあいセンター ※1	94m	清水60-1	—
鶺鴒	鶺鴒ふれあいセンター ※1	27m	鶺鴒469-1	—
鶺鴒町	鶺鴒小学校 ※1	66m	鶺鴒町212-3	65-6351
	多目的研修センター	65m	鶺鴒町225-4	65-6778
	うずら温泉宿泊施設 ※1	51m	鶺鴒町853	65-6366
相生 共和	相和ふれあいセンター ※1	85m	相生49-2	—
木間内 旭丘 社の山 峠下	木間内ふれあいセンター ※1	116m	木間内213	—
新栄	新栄ふれあいセンター ※1	24m	新栄729-2	—
当路	当路ふれあいセンター ※1	27m	当路171-12	—
南館町 館町 中館 城丘	館小学校 ※1 ※2	30m	館町187-1	66-2230
	南館城丘ふれあいセンター ※1	32m	南館町6-2	—
	旧館中学校 ※1	29m	館町152	—
	館地域振興センター ※1 ※2	29m	館町171	66-2238
富里 須賀	富里ふれあいセンター ※1	46m	富里94-1	—

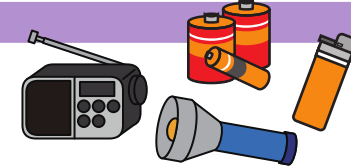
注意 ※1 の付いている避難場所は、大雨等の状況によって浸水のおそれがあるため、安全な場所への二次避難が必要になる場合があります。
※2 の付いている避難場所は、大雨や長雨または地震の状況によって土砂災害のおそれがあるため、避難施設として使用できません。

非常持出品・非常備蓄品を備えよう

非常持出品 非常時にまず最初に持ち出すもの

ラジオ・照明器具

携帯ラジオ、懐中電灯、
予備の電池、
ライター・マッチなど



非常用食品

缶詰・カンパンなど火を通さずに
食べられるもの、水など



貴重品

現金（小銭も準備）、通帳、
免許証、健康保険証のコピー、
携帯電話など



衣類、救急・衛生用品

下着、上着、タオル、軍手、雨具、
マスク、消毒液、体温計、
ばんそうこう、
ウェットティッシュなど



各自必要なもの

メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、
入れ歯、普段飲んでいる薬、
お薬手帳のコピーなど



移動に必要なもの

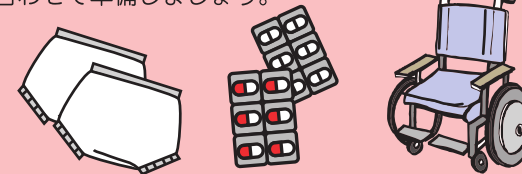
ハザードマップ、リュックサック、
運動靴など



家族構成に合わせて準備しましょう

●高齢者や身体の不自由な方がいる家庭

介護・看護用品、紙おむつ、服用薬など身体状況に
合わせて準備しましょう。



●赤ちゃんがいる家庭

粉ミルク、ほ乳びん、おむつやミネラルウォーターなど。
お子さんの状況によっては離乳食やスプーンも準備。

非常備蓄品 災害復旧までの数日間(最低3日間)
生活できるように備えておくもの

飲料水・食料品

カップ麺・レトルトご飯・缶詰・
レトルト食品・冷凍食品など
水は1人1日3ℓが目安



調理器具

カセットコンロ、ガスボンベ、
やかん、なべ、おたまなど



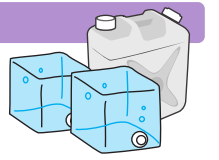
洗面用具

水がなくても洗える
ドライシャンプーなどもあったりよい



生活用水

断水になった時のために、風呂や
ポリ容器に貯水しておくのもよい



寒さ・暑さ対策

身体を温める

ポータブルストーブ
(電池式・ガスボンベ式)、
使い捨てカイロ、サバイバルシート、
防寒着、手袋、帽子、毛布など



身体を冷やす

冷却シート・瞬間冷却材など



長期保存できる日用品や生活必需品

ティッシュペーパー、トイレットペーパー、
ラップ、予備電池、予備ガスボンベなど、
災害時に入手困難になる可能性があるため、
長期保存できるものは多めに備えておく



停電に備えましょう

停電による給水ポンプの停止などによる断水に備えましょう。
(飲料水の備蓄、常にお風呂に水をはっておく、給水された水を入
れるポリ容器や、水を使わない簡易使い捨てトイレを備えておく)



停電が起きてからでは、店に人が殺到し、商品が不足するため欲
しいものが買えません。また停電が復旧しても物流が途絶えてい
るため、食料品や日用品がしばらく買えない可能性も高いです。
災害時に役立つものや普段から必要不可欠なものを事前に多
めに備えておくことは非常に重要です。また、ガソリンも普段から
残量が1/3ほどになったら給油するようにしておくことと安心です。

停電復旧時の火災を防ぐため、プレーカーの電源を落とし、復旧
後に電源を入れるようにしましょう。

大雨について知っておきたいこと

雨に関する用語や情報の意味を理解しよう

気象災害から身を守るため、危険度の高まりに応じて注意報・警報・特別警報が段階的に発表されます。
また、災害の切迫度に応じて避難情報等が**5段階の警戒レベル**で発表されます。これらの情報がどのような意味なのかを日頃から確認し、いざ発表されたときに速やかに対応できるように心がけましょう。

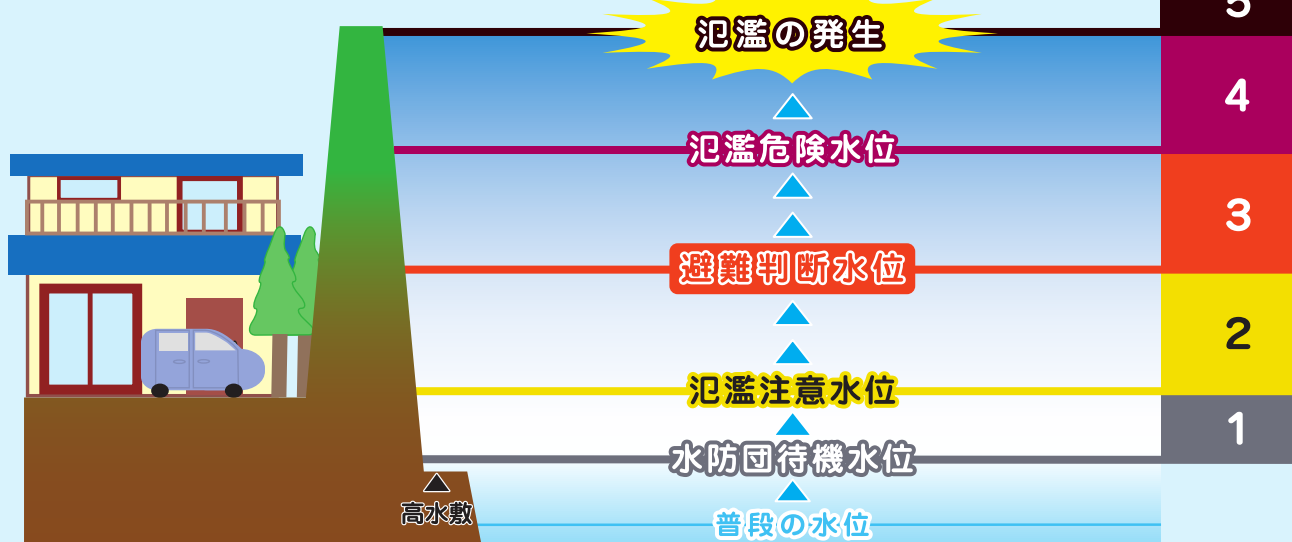
雨の強さと降り方

雨量や雨の強さを表す用語が、どの程度の雨の降り方を表しているのかを知っておきましょう。

1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
降り方のイメージ					
浸水害・洪水害の発生状況	この程度の雨でも長く続くと災害が発生するおそれがあるため注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれる	下水管から雨水があふれる	マンホールから水が噴出する	大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要
土砂災害の発生状況		小規模のがけ崩れが始まる	がけ崩れ、地すべりが起きやすい	土石流が起こりやすい	

洪水予報

北海道は避難の目安となる避難判断水位を定め、各河川の水位がこれに到達したときはその旨を住民へ周知します。水位の情報や洪水予報は、報道機関のほか、国土交通省「川の防災情報」のホームページからも閲覧することができます。



気象庁が発表する情報

気象庁は災害が発生するおそれがあると予想したときは、警報や注意報を発表して災害に対する警戒や注意を呼びかけます。

数日前から… 雨が強くなると… 大雨が降り続くとき… さらに激しい大雨が続くと…	気象庁が発表する情報			住民の行動	
	土砂災害 発生のおそれ	浸水害 発生のおそれ	洪水害 発生のおそれ	注意 気象情報 に	テレビ・ラジオ・インターネット等で最新の防災気象情報を確認し、災害への心構えを高めてください。
	「気象庁では、大雨に関する（気象）情報を出して警戒を呼びかけています」			注意 気象情報 に	
	大雨注意報	大雨注意報	洪水注意報	注意 気象情報 に	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
	大雨警報 (土砂災害)	大雨警報 (浸水害)	洪水警報	注意 気象情報 に	速やかに避難場所へ避難しましょう。避難場所までの移動がかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
	土砂災害 警戒情報	記録的短時間大雨情報		注意 気象情報 に	
	大雨特別警報 (土砂災害)	大雨特別警報 (浸水害)		注意 気象情報 に	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。

洪水情報	とるべき行動	警戒レベル※
〇〇川氾濫発生情報	すでに河川が氾濫している状態です。命を守る最善の行動をとってください。	警戒レベル5相当
〇〇川氾濫危険情報	いつ氾濫してもおかしくない状態です。すみやかに避難し、身の安全を確保してください。	警戒レベル4相当
〇〇川氾濫警戒情報	氾濫の危険がある状態です。避難情報を確認し、早めの避難を心がけてください。	警戒レベル3相当
〇〇川氾濫注意情報	河川の水位上昇が見込まれる状態です。最新情報に注意し、警戒してください。避難準備を始め、いつでも避難できるようにしてください。	警戒レベル2相当
発表なし	気象情報等に注意してください。	

※「警戒レベル」に関しては7ページを参照してください。

大雨・強風に備えよう

大雨に対しどのような対策をとれば良いかを知っておくと、いざというときに落ち着いて行動できます。大雨に関する情報は10日先まで入手することができるため、次の対策を図るよう心がけましょう。

避難場所や避難経路を確認しましょう

日頃からハザードマップを見ておきましょう



防災グッズを点検しましょう

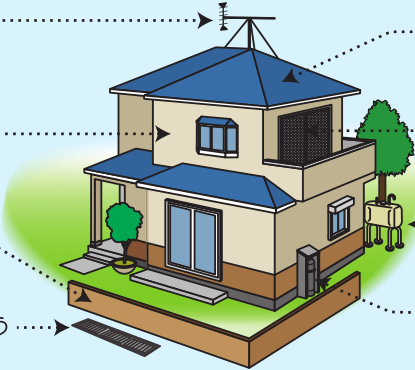
非常持出品、非常備蓄品を定期的に確認しましょう

- 大雨の影響で断水する可能性があります。断水に備え、食料・飲料水の用意や浴槽に水をためるなどの対策を心がけましょう



家の点検・整備をしましょう

- テレビアンテナは………しっかりと固定しましょう
- 壁に亀裂や腐食、浮いた部分がないかを確認しましょう
- 塀のひび割れや傾きを………確認しましょう
- 排水溝の水はけをよくしましょう………
- トタンのめくれを確認しましょう
- 網戸が強風で飛ばないようにしましょう
- 灯油タンクをしっかりと固定しましょう
- プロパンガスのボンベをしっかりと固定しましょう



危険が近づいてきたら…



気象情報を確認しましょう



強風時は窓ガラスにガムテープを貼りましょう



外出は控えましょう



植木などは室内に入れましょう



大雨のときは貴重品を2階に置きましょう

竜巻注意情報が発表されたら…

竜巻注意情報が発表されたときや、下記のような竜巻のきざしを発見したら、身を守る行動をとりましょう。

竜巻注意情報の発表

竜巻のきざしを発見



屋内にいるとき
屋外にいるとき

- ・窓やカーテンを閉めて窓から離れる。ガラス窓の下や周囲は大変危険。
- ・家の1階の窓のない部屋に移動する。
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。



- ・頑丈な建物へ避難する。避難できないときは物陰に入って身を小さくする。
- ・シャッターが開いていたら閉める。
- ・物置や車庫・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険！



避難の判断について知っておきたいこと

洪水時の適切な避難行動を確認しよう

洪水(河川の氾濫)によって市街地や建物、畑が水で覆われることを浸水といい、その深さを浸水深といいます。一般の建物では、浸水深が0.5m未満の場合は床下浸水、0.5m以上になると床上浸水するおそれがあり、3m以上では2階も浸水するおそれがあるため、2階への避難ができません。

洪水の正しい避難行動は、「浸水が始まる前に避難する」ことです。浸水の中の避難は大変危険です。

別紙の洪水ハザードマップで自宅や職場などの浸水等の状況を確認し、下の図でいざというときの避難行動を普段から確認しておきましょう。

あなたがとるべき避難行動は？

スタート

別紙の洪水ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※洪水ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

すでに浸水が始まっているなど災害が発生・切迫し、避難場所等への避難が安全にできない状況で、自宅の2階などが浸水する深さよりも高く、水・食料などの備えが十分にある場合は、**自宅の2階などの高い位置に上って安全確保することも可能です。**

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル3が出たら、**町が指定している避難場所**に避難しましょう

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル4が出たら、**町が指定している避難場所**に避難しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう
感染症が心配される中でも、災害時には、**危険な場所にいる人は避難することが原則**です。

知っておくべき避難の5つのポイント

- 1 避難とは「難」を「避」けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
- 2 避難先は、町の避難場所だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- 3 マスク・消毒液・常備薬など、できるだけ自ら携行しましょう。

- 4 町が指定する避難場所が変更されている可能性があります。
災害時には町のホームページ等で確認してください。

- 5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分確認してください。



警戒レベルに応じたとるべき行動

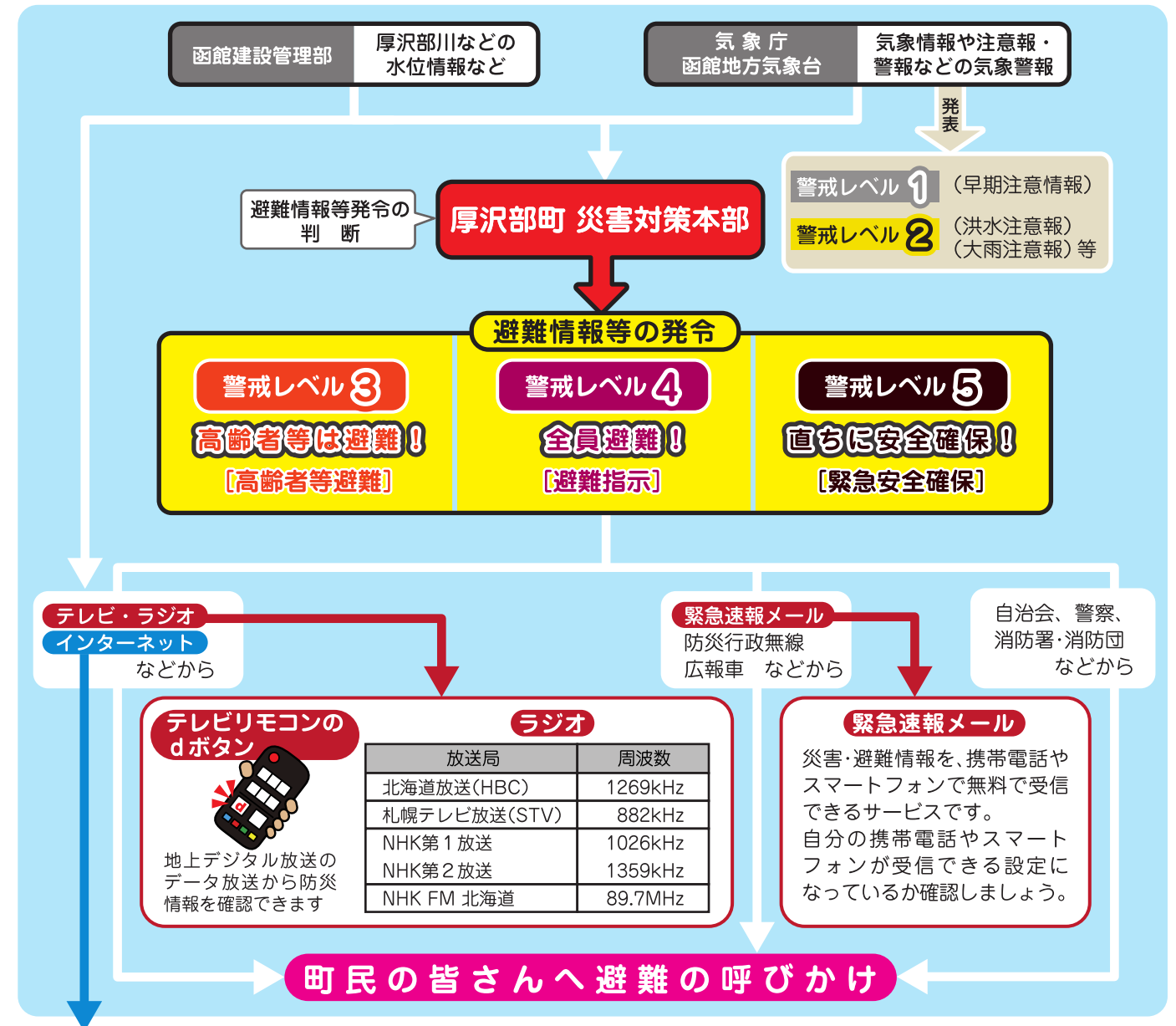


注意

- 【警戒レベル5】ではすでに災害が発生しています。また、必ず発令されるものではありません。
- 【警戒レベル3】や【警戒レベル4】の段階で地域の皆さんで声を掛け合って、安全・確実に避難しましょう。

水害時の情報の流れと避難の呼びかけ

洪水等による被害の発生が予想されるときは、その状況に応じて、町から避難情報等が発令されます。これらの情報は、テレビやラジオ、インターネット、緊急速報メールや広報車などによって町民の皆さんに伝えられますので、町からの呼びかけに注意してください。



インターネットによる 災害情報 はこちらから

気 象 庁

<https://www.jma.go.jp/>



札幌管区気象台

<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

北海道全域の気象情報を発表しています。

レーダー・ナウキャスト
(降水・雷・竜巻)

<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

レーダー観測などをもとに、降水、雷、竜巻の予報を提供しています。



降水短時間予報

<https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/>

局地的に短時間で降る雨の予報を30分おきで6時間先まで提供しています。



川の防災情報

<https://www.river.go.jp/>

リアルタイム雨量・水位の情報を提供しています。水防警報、洪水予報やダム放流も通知します。



北海道防災情報

<http://www.bousai-hokkaido.jp/>

北海道の防災に関する情報を発表しています。

北海道士砂災害
警戒情報システム

<http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>

士砂災害による被害の防止・軽減のための情報を発表しています。



厚沢部町ホームページ

<https://www.town.assabu.lg.jp/>



土砂災害について知っておきたいこと

いろいろな土砂災害

土砂災害は、地震や雨が原因で起こります。

1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



がけ崩れ

雨や雪解け水、地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象



土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより、水と一緒に激しく流れ下る現象



地すべり

雨や雪解け水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象

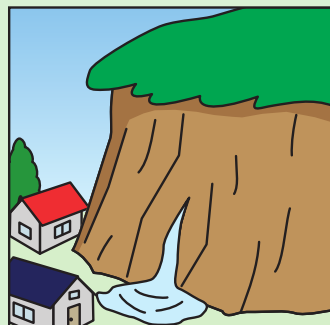
！こんな前ぶれ現象に注意！

下記のような前ぶれ現象を察知した場合は、土砂災害が発生する可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防・警察へ通報してください。

小石がパラパラ落ちてくる



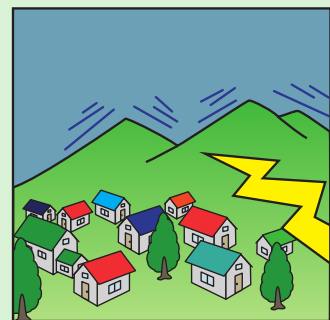
がけから水がわき出る



斜面にひび割れができる



山鳴りがする



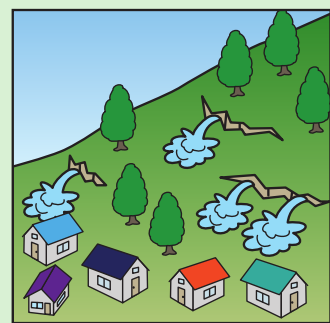
川の流れが濁り、流木が混ざり始める



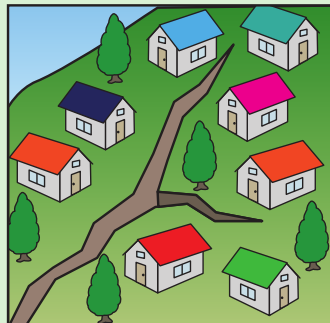
雨が降り続けているのに、水位が下がる



がけの斜面から水が噴き出す



地面にひび割れができる



沢や井戸の水が濁る



土砂災害から身を守るために

まわりに土砂災害のおそれのある箇所があるか確認しましょう

日頃から自分の住んでいる家のまわりや避難場所までの経路に土砂災害のおそれのある箇所があるか、ハザードマップで確認しましょう。



雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう

雨が降り出し、土砂災害警戒情報が発表された場合は、避難の準備をし、町の避難に関する情報に従い、速やかに避難しましょう。



！避難するときの注意点

- 避難場所へ移動する**立ち退き避難**が基本です。
- 避難場所や安全な場所へ避難する際、他の土砂災害危険箇所の通過は避けましょう。
- 土石流に関しては、溪流に対して**直角方向**にできるだけ溪流から離れましょう。
- 屋外での移動に危険が伴う状況下では、立ち退き避難がかえって危険であるため、このような場合は、**建物の2階などのより高い階にある山の反対側の部屋に待機**しましょう。



土砂災害に関する用語の説明

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域とは？

土砂災害警戒区域とは、法律に基づき、北海道が土砂災害危険箇所について現地調査を行い、土砂災害が発生した場合に「住民の生命・身体に危害が生じるおそれがある」土地を指定した区域で、避難体制の整備や土地利用制限などの規制がかけられます。(イエローゾーンと呼ばれることもあります。)

土砂災害特別警戒区域とは、警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に、建築物が損壊して住民の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域で、一定の土地開発が制限され、居室を有する建築物の構造が規制されます。土砂災害警戒区域の中でも特に危険な区域で、レッドゾーンと呼ばれることもあります。

山地災害危険地区とは？

山地災害危険地区とは、山地から発生する山腹の崩壊、地すべり及び崩壊土砂の流出などによって、官公署・学校・病院・道路等の公共施設等や人家等に直接被害を与えるおそれがある地区で、地形地質等が一定の基準以上の地区を調査把握したものであり、法的な規制はありません。

山地災害危険地区は、災害の発生形態等によって、**山腹崩壊危険地区**、**崩壊土砂流出危険地区**、**地すべり危険地区**の3種類に区分されます。

ハザードマップでの表記の仕方

